

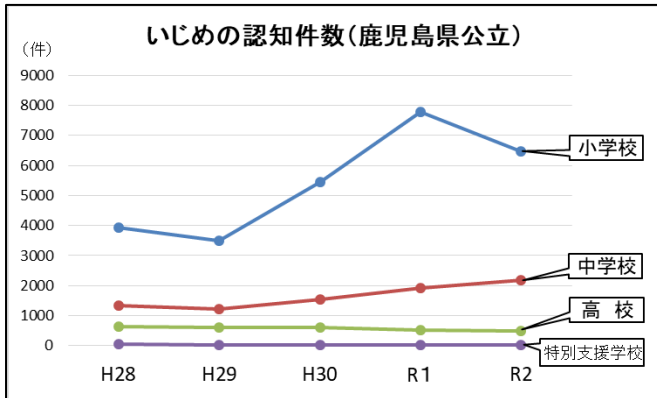
鹿児島県公立学校における令和2年度児童生徒の問題行動・不登校等の状況

義務教育課・高校教育課

鹿児島県公立学校における令和2年度児童生徒の問題行動・不登校等の状況は以下のとおりです。

いじめの状況

令和2年度の本県の認知件数（全公立学校合計）は昨年度より10.6%減少しています。



県教委では、各学校に対して、いじめほどの学校でも、どの子にも起こり得るとして、冷やかしやからかいなどの軽微と思われる事でも「いじめの芽・兆候」として積極的に把握し、「まだ気付いていないいじめがある」「1件でも多く発見し、それらを解消する」という姿勢で臨むように指導をしています。近年各学校がいじめを積極的に認知するようになり、認知件数は増加していましたが、令和2年度はコロナ禍の影響もあり、全体的には減少しています。

<いじめの1,000人当たりの認知件数>

	H30	R1	R2
全国平均	40.9	46.5	39.7
鹿児島県	39.9	53.8	48.4

全国と比較すると、平成30年度は1,000人当たりの認知件数が全国平均を下回っていましたが、令和元年度からは全国平均を上回っています。いじめの認知件数が多いことは、教職員の目が行き届いている証です。

また、いじめ発見のきっかけについては、次の3つが上位を占めています。

<いじめ発見のきっかけ> (鹿児島県公立)

1位	アンケート調査等	(54%)
2位	本人からの訴え	(19%)
3位	学級担任が発見	(14%)

アンケート調査がいじめ発見の5割以上を占めることから、現在、各学校へは年間5回以上のアンケート実施を呼びかけています。

不登校の状況

令和2年度の不登校児童生徒数は、前年度と比べて小学校で129人、中学校で160人の増加、高校は3人の減少でした。

<不登校児童生徒数> (鹿児島県：人)

	H28	H29	H30	R1	R2
小学校	307	294	427	466	595
中学校	1408	1369	1496	1511	1671
高校	657	718	756	726	723

不登校の要因は以下のとおりです。

<小学校>

- 1位 無気力、不安 (35%)
- 2位 親子の関わり方 (19%)
- 3位 生活リズムの乱れ、あそび、非行 (18%)
- 4位 いじめを除く友人関係 (10%)

<中学校>

- 1位 無気力、不安 (41%)
- 2位 いじめを除く友人関係 (17%)
- 3位 生活リズムの乱れ、あそび、非行 (9%)
- 4位 親子の関わり方 (8%)

<高校>

- 1位 無気力、不安 (30%)
- 2位 いじめを除く友人関係 (14%)
- 3位 入学、転編入学、進級時の不適応 (14%)
- 4位 学業の不振 (9%)

不登校の要因を分析すると、「無気力、不安」、「生活リズムの乱れ、あそび、非行」が全体の4割以上を占めています。その原因については、コロナ禍による生活環境の変化や、スマートフォンやゲーム機器等の普及により、ゲームやSNS等を深夜まで行い、睡眠不足や昼夜逆転しているケースが増加していることなどがあります。

このため、児童生徒の家庭における規則正しい生活習慣を確立させるよう、学校と家庭とが連携し、児童生徒のインターネットの利用についてのルールづくりや、フィルタリングの設定等を確実にを行うよう指導してください。

<鹿児島県教育委員会ホームページ>

<https://www.pref.kagoshima.jp/ba04/kyoiku-bunka/school/shidou/22koudou.html>